

安心して子育てができる市に

子育て支援について



議員 市の出産祝金、そして産前産後の子育て支援の充実や子育てに充分に理解が整った企業がある常総市なら、住み続けてくれる人は増えるのではないかと。27年4月にスタートした、子ども・子育て支援制度の現在の取り組みを具体的に尋ねる。

保健福祉部長

地域の実情に応じて認定こども園の普及を図るとともに、新たに地域型保育が創設された。地域型保育では、これまで認可外であった定員19名以下の保育

事業が4つに分類され、市が認可を行うことで公費の給付対象となる。市でも家庭的保育事業所として1カ所認可している。待機児童解消として0歳児から2歳児の受入れ枠が増え、量の拡充となっている。質の向上としては、幼稚園や保育所、認定こども園などの職員の処遇や配置の改善などがある。

議員 現在の待機児童数を年齢別に尋ねる。

こども課長

29年4月時点で、0歳児1名、1歳児2名の3名である。

議員

市では一つしかない家庭的保育事業所を増やしてもらいたい。また、国、県の制度にある子育て支援員とはどのようなものか。

保健福祉部長

家庭的保育や小規模保育施設、放課後児童クラブ、地域子育て支援センターなどの分野での職場で活躍することが期待される。

議員

市で活躍する介護予防員のようには子育て支援員を養成してもらいたい、職員のサポート、子どもを産む人、子育てをする方が安心できる市でありたい。是非養成を実現して欲しい。

□ 殿 質 問 JOSOSHIGIKAYORI JOSOSHIGIKAYORI JOSOSHIGIKAYORI JOSOSHIGIKAYORI □ 殿 質 問

誇れる工業振興策を！

工業振興について



く、工業団地内の環境整備や地元雇用の促進として補助制度の活用など、継続して操業してもらうための支援を行っている。また「常総市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン総合戦略」に基づき、産業用地を新たに確保し、企業誘致と一層の振興を図っていききたい。

議員 工業団地に空きがないのに、企業誘致に努めるといっても、どこに企業を誘致するのか。

市長

今ある4つの工業団地では足りない。圏央道の効果による企業からの立地の声に対し体制ができていない。具体的な目標設定や就労ニーズ、どのように財源を獲得するか、来年度にこの専門プロジェクトを作っていくたい。

議員

労働者をいかに確保するか、ブランド同様で情報発信力、市をいかに売り込んでいくか、みんなの目に、色々な人の目につかせること、そういうことをやって初めて常総という名前が売れる。水害だけで売れていてもしょうがない。すばらしい常総市をという思いで頑張っていたきたい。

経済環境部長

首都圏からのアクセスが良いことから、工業団地に空きがな

議員

工業生産高県内8位は本当に誇れるのか。前市長が工業製品生産額が8番目ですごいと言っていたが、何年間も8番目である。誇っていいと思うが、それに甘んじていいのか。もっと市民の生活を楽にする、税収を上げる、そのために何をやるか、しっかりとした工業振興対策を打っていかなくてはならないと思うが、市の考えは。